



メルボルン子育て日記

7

いよいよ小学校入学の日。5歳の体には大きすぎる学校かばんを持って当校しました。驚いたのは、入学式のようなものが一切ないこと。事前にクラス名と担任が知らされていたので直接教室へ行くと、普通に授業が始まりました。日本の立派な入学式を知っている私は、ちょっと拍子抜けしてしまいました。

オーストラリアの学校

## ピカピカの1年生

は2月が新学年で、ビクトリア州は4学期制をとっています。学期と学期

## 入学式なく普通に授業

の間には「スクールホリデー」という2週間ほどの休みがあります。12月の「クリスマスホリデー」は特別で、6週間の休みです。小学校では休み中の宿題はほとんど出ま

るので、子どもたちはしつかりホリデーを楽しみます。

さて、小学校生活で日本と違うと感じたものをいくつか紹介します。まず、学校への送り迎え。徒歩圏外から通う子ども

が多いこともあり、ほとんどは親が車で送り迎えします。登下校時間になると、学校周辺は駐車スポットを探すが大変なほどです。高学年になれば自転車を通う子ども見られますが、低学

年の小さな子どもが1人で道を歩くということはないのです。子どもたちの安全を守るという点では、親が送り迎えをするというのは良いことですね。

イッチを持ってくる子がほとんどです。

学校には「カンティーン」(Canteen)と呼ばれる売店があって、ランチを持って来られない場合はそこで買うことができます。ミート

ランチもユニークです。こちらの小学校では、日本のような給食システムはないので、家からランチを持参します。娘の小学校では、30分の中休み時間がスナックタイム(クラッカーなどのおやつを食べる)、お昼ごはん前にフルーツタイム(果物を食べる)、そしてランチタイム(お昼ごはん)となっています。お昼ごはんと言っても、食べやすい簡単なサンド

(新山直子、メルボルン在住)

(日曜日に掲載)



布製のリュックサックのような学校かばん